

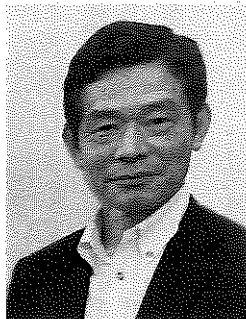
# 入会促進特別委員長を 拝命して

小淵信夫 陸自78

本年7月1日付をもって、柳沢委員長の後任として入会促進特別委員長に就任した小淵信夫です。若輩者ですが（と言っても60歳は既に超えております）、よろしくお願いいたします。

偕行社に入会したきっかけは、柳沢前委員長が東京地方連絡部長をされておられた際に、平成9年から募集課長としてお仕えした縁で、退官後入会のお誘いを受けたことでもあります。

地連勤務当時の募集状況としては、自衛隊の国際貢献活動が一般に評価されて志望倍率が高くなり、街頭募集から組織募集への移行がかなり進捗した時期でしたが、好景気となり一般の就職口が増えたこともあり、学校・自治体等を通じた募集を抜けつつ、ダイレクトメールで関心を示した有資格者へ



の広報や所謂つなぎ広報によって入隊まで結びつけていたというのが実態でありました。

さて、柳沢前委員長は、平成22年から7年という長きに亘って委員長としてご尽力され、元陸自出身幹部自衛官会員3千名の大目標を達成されました。これは偉業、大きな功績であり、ここに柳沢前委員長に心よりの敬意を表するとともに、後任者としてそのご意志を受け継ぎ、次なる同会員5千名の新規目標達成に向け、精一杯努力することをお誓い申し上げる次第です。

偕行社は、会員の皆様ご承知のとおり「英霊に敬意を。日本に誇りを。」という基本的理念のもと、慰霊事業や安全保障・近現代史シンポジウム等事業、自衛隊への協力事業などの公益事業を展開しています。偕行という言葉は、「ともに軍に加わるう」からきているとのことですが、古今東西、国のために自らの命をかけた方々を尊び、殉じられた方々を慰霊することは大切なことであり、それは先の大戦で、国のために戦われた旧陸海軍の方々も同様であります。そしてこのことは、子々孫々伝承していかねばならない大事なことと考えております。

振り返ってみると、自衛隊の歴史の約半分（創設された1954年から1984年の30年）にわたって、陸軍士官学校等出身の方々は、自衛隊という

軍事組織の中にあつて、そのあるべき姿を真摯に追求・具現してこられたので、元陸自出身の幹部自衛官は少なからず素直にその薫陶をいただき、今日があります。そして偕行社の従前会員の皆様の中には、日本社会の政財界・文化面等異なる分野でそれぞれリードして来られた方々もおられますが、偕行社は皆様方の心の原点、拠りどころとして今もあり続けていることを強く感じております。

元陸自幹部自衛官への組織継承がほぼ完了しつつある中で、偕行社の会勢を維持・拡大していくことは大変厳しいものがあると私は見ており、新規目標を達成することは決して容易なことではないと認識しておりますが、そもそもの本会の意義を防大・一般大卒の元幹部自衛官のみならず、部内出身等の方々に、（ご家族の方々にも）ご理解を得て入会していただくことが重要であるとも考えているところです。

従って、部内出身等の方々の入会促進施策を防大・一般大同期生による入会促進の実績を活かして、検討し実施していこうと考えております。

また、同期の絆の強化にも繋がっている同期に対する入会促進、会勢拡充に加えて、同期を超えた連携による入会促進を充実し、縦横の絆のネットワーク強化にもつなげていければと考えております。

さらに、退職前の現職幹部自衛官が入校している小平学校、そして各方面の業務管理集合教育における偕行社の説明機会を、活かして参ろうとも考えております。

ここ数年の新たな広報施策、そして機関誌『偕行』の充実、安全保障・近現代史に関するシンポジウム、講師派遣等は、偕行社を理解していただく意味でも有効なものであり、入会促進特別委員会においても、その内容等を認識共有し、知見をもって入会促進業務に活かしていければ、とも思っております。

以上、縷々述べてきたように、今後の入会促進においては、多様化が必要であり、入会促進特別委員や各地偕行会の入会促進特別協力委員の方々、そして事務局のご尽力と連携に負うところが大きく、かつそれを期待するところが大きいです。

入会促進の成果としての会勢の維持・拡大は、偕行社の人的・知的基盤であり、日本に誇りをもたらず偕行社らしい各種活動の基盤となりますが、これは確かに、前委員長が言われたように、偕行社の将来に夢と希望を与えるものでありましよう。

そのような意義深い入会促進に、皆様とともに鋭意取り組んでいく決意を再度申し上げます、就任のご挨拶といたします。